

製品名: TATA ボックス結合タンパク質 (10C1) マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM00780**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:100
分子量	-

抗原情報

遺伝子名	TBP
別名	TBP; GTF2D1; TF2D; TFIID; TATA-box-binding protein; TATA sequence-binding protein; TATA-binding factor; TATA-box factor; Transcription initiation factor TFIID TBP subunit
遺伝子 ID	6908
SwissProt ID	P20226
免疫原	ヒト TATA 結合タンパク質 TBP の合成ペプチド

背景

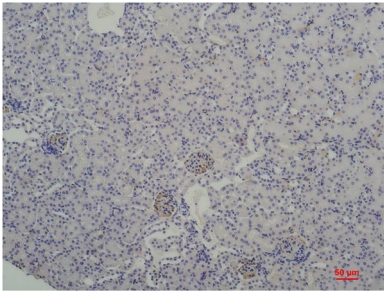
転写開始複体に含まれる数少ないタンパク質の一つである TBP は、DNA に配列特異的に結合することで、RNA ポリメラーゼ II を

遺伝子の転写開始部位に配置するのに役立ちます。しかしながら、ヒトプロモーターのうち TATA ボックスを持つのはわずか 10~20%と推定されています。したがって、TBP は RNA ポリメラーゼ II の配置に関与する唯一のタンパク質ではないと考えられます。このタンパク質は、核膜が除去されたサンプルには適していません。

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



TATA ボックス結合タンパク質 (10C1) 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。